

2 先進的な事例紹介

2.1 児童見守りアプリケーションの事例

以降に児童見守りアプリケーションの各事例について概要を記します。

2.1.1 FairCast[®]－子ども安全連絡網(静岡県三島市)

【概要】

三島市の人口は約11万人、人口密度は約2千人/km²です。戦後多くの学校が開校したため、文教都市としての特色を帯び、昭和44年に東海道新幹線三島駅が開業し、文字通り伊豆の玄関口となりました。首都の通勤圏ということもあり、在住期間の長い家庭と首都圏で働く家庭が混在しています。

児童を巻き込む犯罪が増加する中、これまで学校からの緊急連絡は、時間がかかる学級の連絡網を利用するか、学校の少ない電話を利用し、各教員が保護者1人ずつに電話をかけるか、教員自身の携帯電話で連絡をするしか方法がありませんでした。そこで、一斉に短時間で正確な連絡が可能な①見守り情報共有タイプである「FairCast－子ども安全連絡網」の導入が図られました。

【市独自事業】

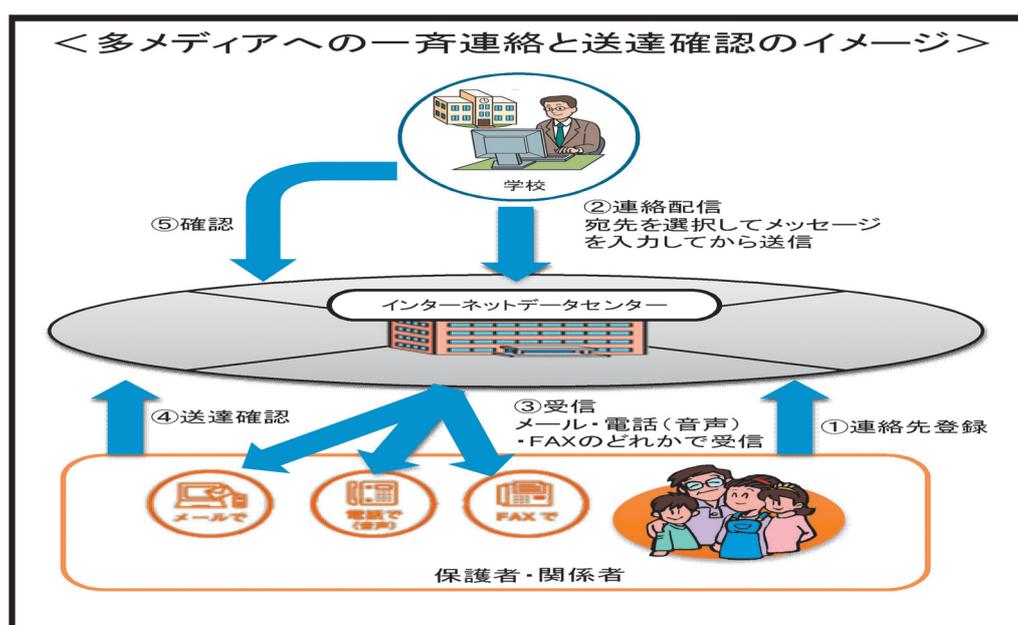
【コラム】

このシステムで実現する機能を記します。

① 連絡・情報提供機能:

- ・多メディアに対する一斉連絡と送達確認

パソコンや携帯電話から、保護者が事前に登録したメール、FAX、固定電話・携帯電話への一斉連絡及び連絡を受けたことを確認する機能。



システムのイメージ図

・2種類の連絡形態

通常連絡：設定された1つのメディアへの連絡。

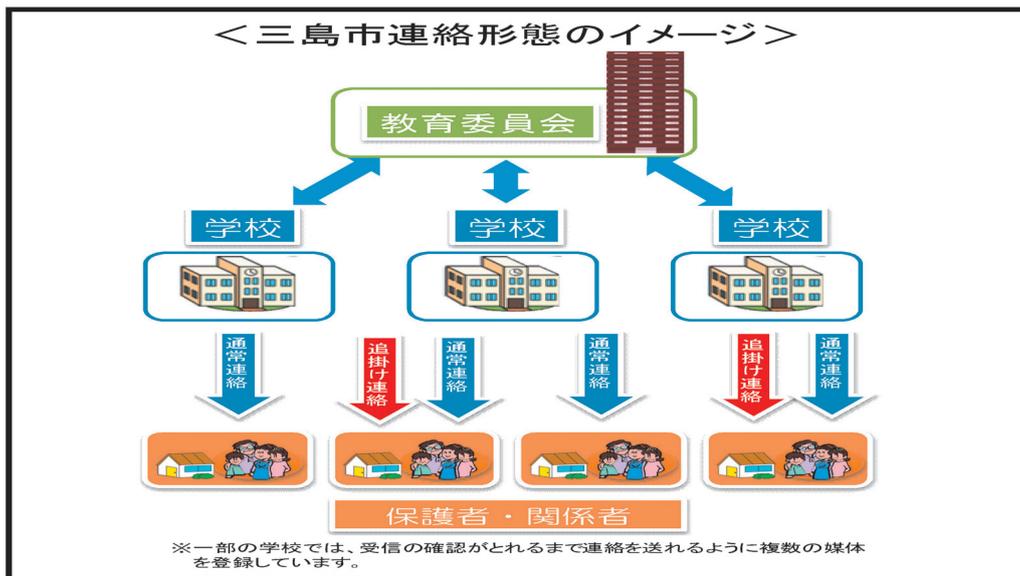
追掛連絡：緊急時に受信が確認できない場合、登録されている他のメディアに順次連絡。

・個人情報の秘匿とシームレスな連絡先管理

連絡者は個人情報に触れることなく、また連絡先グループを自由に組替えて情報を配信することが可能。

次にこのシステムの事業への評価を記します。

- ① 平成19年度より、市内21校の全小中学校で導入。各校の登録率は、ほぼ100%に達している。
- ② 教育委員会：「連絡先を管理しなくても済み、使いやすく確実性が高い情報格差の無い連絡網整備は、子どもの安全確保に有効」
- ③ 学 校 長：「電話連絡網だと、時間がかかる上、不在家庭には連絡がつかなかったもので、大変助かっている。地域ボランティアへの見守り依頼にも活用」



[事業費(うち、国からの補助額・委託額等)]

約315万円/年(市単独事業)※通常連絡分のみ公費負担

(問い合わせ先)

三島市教育委員会事務局 教育総務課

e-mail: kyousou@city.mishima.shizuoka.jp

出典: 児童見守りシステム導入の手引書

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_tb.pdf